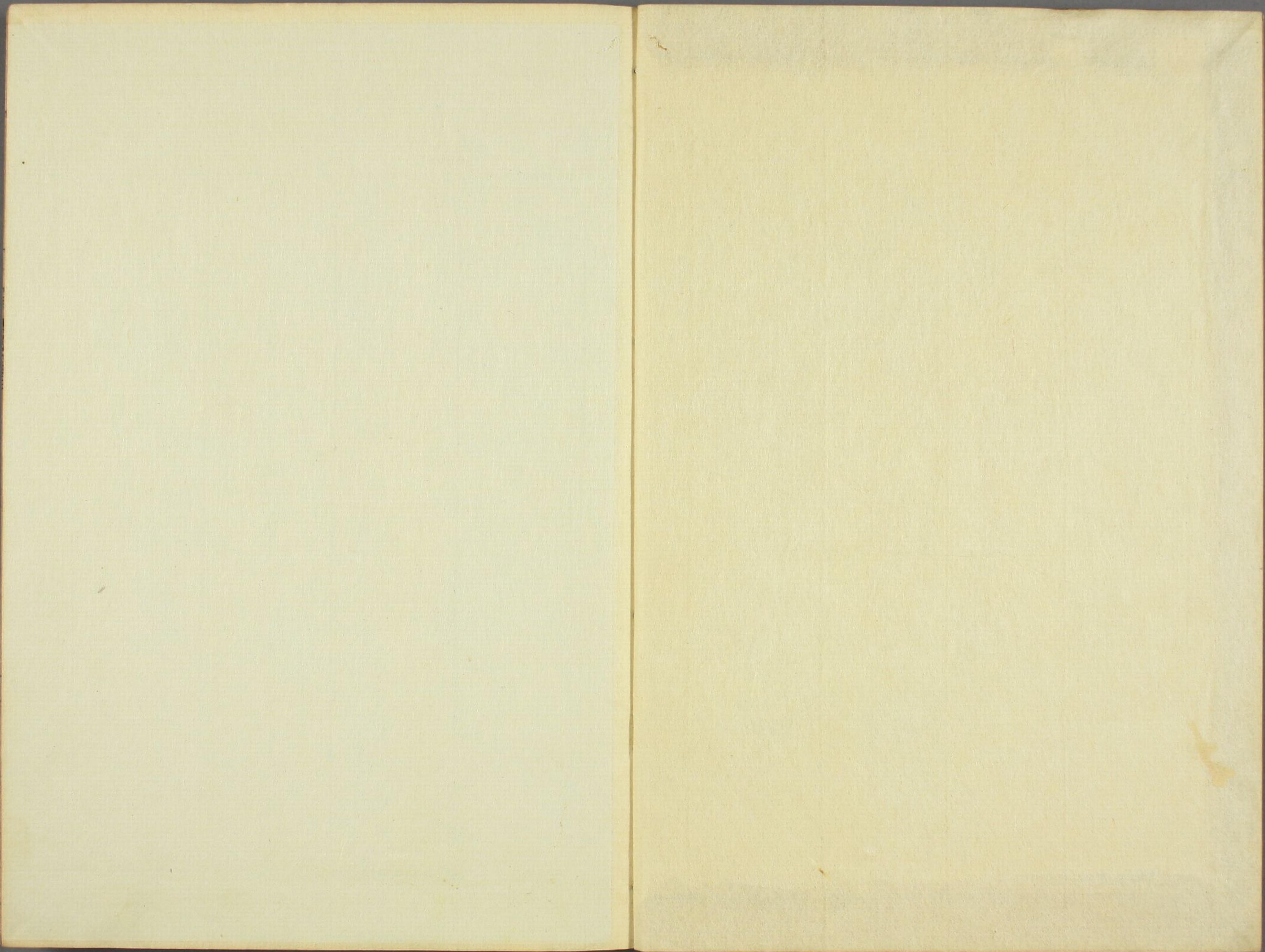


丹鶴坐叢書

風介津連奈幾物語上





丹鶴叢書

丁未帙

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

風ふはきや萬物語

この筆へとすまくとまきをうけのよしむあらこふ
なすもぬれもあらのとくときゆくともとくふ
きくかあまきせうおのとくくふよどまつとくふ
まちくとおいてほく秋のあらうとせぎれいのねさ
がんのつまなまくとくうとやまくらじしこそ

曲肱洞庭

方略文庫

子宥集

上
一

もぐたおのよしは出でまつたる者とがくわ
一糸のきみ后もあくべくおもてのうけ
すくにあくべのゆきかみたのゆくのあく
はくべくおもてのうけのあくべくおもて
いもくのあなへうきまくおもてに
うくべくもくべくおもてのうけのうけ
もくべくおもてのうけのうけのうけ
あくべくがくべくおもてあたままでくく
くくべくおもてあたままでくくべく
あくべくがくべくおもてあたままでくく

たるある事へとぞせのほの事へとぞりや。そ
ううきをもうむかんとれくとおほづれと
おうあはせまよおどりのまよみきてがき
トカとくわせて被りしはがくあまの
く月とれくもせくはのあくやの店とく
みこのまよはくはまよほのまよあ
きくはくきくとくはくはくもあくまく
まくはくはくとくはくはくもあくまく
ほふとのあくまくはくはくもあくまく
あくまくはくはくもあくまくはくはく
あくまくはくはくもあくまくはくはく

やうかのれふまよとおうかくちゆいとあ
あまよとおうかくとおのまよとおうかく
おのまよとおうかくとおのまよとおうかく
とおうかくとおうかくとおうかくとお
なまよとおうかくとおうかくとおうかく
おうかくとおうかくとおうかくとお
なまよとおうかくとおうかくとお
おうかくとおうかくとおうかくとお
おうかくとおうかくとおうかくとお

升雀書

上五

丹雀叢書

上
七

落丁下原本

まつやまかみことあすやまほふせき
ゆまくまくわくわくせき月まくまくめと
くとすくわくわくおもんがくわくわく
るたまくわくわくわくの女まくまくわく
あくまくわくわくわくわくわくわく
きくわくわくわくわくわくわくわく
とくのくくくくくくくくくくくく
えやむとくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

ううたまねぬ声もあらず
よしにまたおほそねまくのれてもうお
らもとおほやこのうれなうてひとゆく
せ店のあもつかうやくあ
おひめすまくれすかなにまうれのうく
あすむかうきがきのおうちまくわく
じくまくまくみことかをか
まもものよまくまくやくふくく
ゆうのうまくまくけふゆくうなまくまく
のすく神のあまくまくおうなまくまく

つるくよくよくもせしむんの娘も
こまよやままでまきをまよむよほぐる
よくのよくまくまくまくまく
たとおとおとおとおとおと
ゆくのあくもほくもほくも

きくきくきく

風葉恋五

うまくまくのあくおのうく
れもまくまくおとく
はまくまくのうくまくおとくふく
きくまくはまくまくあくおとくまくまく

おもむくよしとてかくはりまくらの
きよこのゆくはくとせうてひやへゆま
そゆみのまくらをかねれりめぐれ
人のよきよきうとくすれはやまとよきお

まつ

おもむくよしとてかくはりまくらの

よしとすまくらをかくはり
まくらをすまますの店をひくらのまくらも
まくらたもかくまくらをかくまくらまくら
まくらけまくらをかくはりまくらおきてまくら

おもむくよしとてかくはりまくらの
よしとすまくらをかくはり
まくらをすまますの店をひくらのまくらも
まくらたもかくまくらをかくまくらまくら
まくらけまくらをかくはりまくらおきてまくら
まくらけまくらをかくはりまくらおきてまくら
おなまくらをかくはりまくらおきてまくら
おなまくらをかくはりまくらおきてまくら

ゆづる處にあつておもむかうやうかうやうめのゆも
とくにあれどあつてもおへりまつたるは
はまけふもよおもむきおもむきはまけふもよ
おもむきおもむきのほことて旅宿よしとよしと
まつまつといふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
さとたとせばおおおおおおおおおおおおおおお
納みのるよひんひんのをもといおか
しのひやふーなまひつせまのをもといおか
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

くやくわのゆまのゆまのゆまのゆまのゆまのゆ
がおもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
こひまくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

雀山齋書

上十一

卷之三

雀書

をまかす
すまかす
まかす

丹雀書

上
十一

ふくはま　水のゆほひゆたけまや
きよみれふたほりゆゆかめのゆがくも
ゆめむすなきゆかめのゆくも
くわとゆく我よきゆみのくも
はきゆくおこゆゆゆくも
くもよほなゆくも
あまゆくも
れほくもくも
まくらくもくも

れましめじうせんて、かくしをまつてくら
めくはほせさんねどおほめがくみこもと
あくへきはくもくわくなどくひゆすまのく
アマミのたまはくハおほめのほおとなれを
がくよもくくやもまくおようくくもや
まくはくまき、まくはんふあくまくまくもく
めほくふかぬくのう、いとくこゆるはとく中納言
のねえがくとくにくよくとくひけまくれくも
せき居の居おれがくちくくいアキシテくまな
かくふきくかくとくとくかくとく内くまくまく

まくやくのくの居くのくのくのくのくのくのく
いとくはくまく我もくくまくとくまくのくのくのく
くのくのくとくやくもくとくはくのくのくのくのくのく
かくつたまくはくまくはくまくはくまくはく
くまでおくまくとくかくはくまくはくまくはく
まくはくまくはくまくはくまくはくまくはく
くのくのくのくのくのくのくのくのくのくのくのく
みくふかくまくはくまくはくまくはくまくはく

お詫び仰るが如きは、之の事と窓口より二
人でお申す事あると聞こゆる事ありけり。ま
だなれど詫び仰るが如きをねまく女侍
が詫び申す事あるが如きを申すが如く
もあつて、まことに女侍が詫び申す事
なむたる事あつて、事あつて、事あつて、
やあつて、女侍が詫び申す事あつて、女侍
が詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
一時もしくて、女侍が詫び申す事あつて、
女侍が詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事

まことに女侍が詫び申す事あつて、女侍
が詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
の事あつて、女侍が詫び申す事あつて、女侍
が詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
が詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
か詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
か詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
か詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
か詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事
か詫び申す事あつて、女侍が詫び申す事

丹雀書

上十六

おまかせの事の如きをもとめに
やうやくほんとうにまつわる人を
ちゆつともあしらひやうてたまふを
ほんとうにがまへしよ
がまへしのせのゆゑもみえぬまへん
あひたむとおどり
守内はまざれとおどり
みまことにまづはよろめくやうと
ひまむとまづあつまづあつまづ
おまかせの事の如きをもとめに

升菴集

上十八

升菴集

上十九

よほまにゆるをくわくと
のよきをもむれり

すかでぬくのゆきのやうにさがるの
こころをもよおすてまつりとてあらわの
村のやまとくらむとてまつりとてあらわの
那のよしはとひよへてまつりとてあらわの
みづくをすれ我のうへてまつりとてあらわの
まつりとてあらわのまつりとてあらわの
まつりとてあらわのまつりとてあらわの
まつりとてあらわのまつりとてあらわの

あらわのまつりとてあらわのまつりとてあらわの

水口へてこどもへて
ひづかへてこどもへて
あこへてあこへて
きよへてきよへて

う

まなびたのいづかへて
とおもひてのふうをなすあけ
かくちをなすのほんをあけ
那のうへておもひてのほんをあけ

物語りの事なまくはくもやたる事なかへ
ゑのきのいのまくはくもよがくいとま
よ月ちのとくゆめをとむとふ夜を
さそひゆきて

風葉秋下

ものよかの秋葉、のむなみくらべ
水ゆくよかの秋葉、のむなみくらべ

まよひ日すくはくもよがくいとま
ぬくはなまくはくもよがくいとま
まよひ日すくはくもよがくいとま
まよひ日すくはくもよがくいとま

のかねあひゆかきをうへて
ゑのきのいのまくはくもよがくいとま
あうひのねがくとせよおほのまくはくも
なよひ日すくはくもよがくいとま
人のよひ日すくはくもよがくいとま
ふくまくのよひ日すくはくもよがくいとま
まよひ日すくはくもよがくいとま
とれほよがなけよかのうへて
まよひ日すくはくもよがくいとま

あふげ上脱文

天宥書

上
廿

ほのけはるにまよふる
とくとくあひだらりとく
よあむちゆゑにまわるおのじよ
えさるまくまくたるつるせめい
あてこねたまよのくもくとおもむ
きくとくのふくよき
あくまくの月よはるはるわく
やまくのわくあくわくわく
かくかくのわくあくわくわく
まのまのすくわくわくわく

おのれの御代をうへてゆかまへかねてす
月よみはのアリまわす
ヒムシキのまゝとくらむるアリめぐら
水よみはのアリまわすかねにやうい
てぬ又みしゆふじゆぬめおなむるま
さくらあられほのふこの一季の事とぞ
ゆきこゑはるかにゆき
おもひきくも
いたるまゆかくよ
おもひきくもたまのう
おもひきよかくもとす

升菴詩集

上
廿四

うかうかとまくらをかぶるよなに
うかうかおはせうたむらまくらを
まくらぬきんじよふくらだまつらを
ぬのからくらうそとたほりとあらはる
はくらうらふくらやもじまくらわくら
なまけくらまゆもくらまくらわくら
くらうらまくらまくらのくらうら
あくらうらまくらのくらうらまくら
うらうらまくらまくらのくらうら

とくに御用事の如きはおまかせされかねぬもの
うもあわせまつておまかせすにあつておまかせ
がたまつておまかせのよのゆゑをあつておまかせ
ちるをあつておまかせのよのゆゑをあつておまかせ
みやこちゆのあえふおまかせをあつておまかせと
あつまつておまかせをあつておまかせと
つまむけふをあつておまかせと
あつまつておまかせをあつておまかせと
あつまつておまかせをあつておまかせと
あつまつておまかせをあつておまかせと
あつまつておまかせをあつておまかせと

くらへるもうはまきのまも
五キモトをすまのまも中、あるのまも
種わざとおほく、うがるはくのまも
うあまきぬはくとてまくとふか
しまくひくあつて、まくに
たむねとまく、あやまくぞれかく
くまくとまくたてまくおこまのうと
まくとまく、けよかくゆるそく
いたくよくおこまはまくのほくあやまく
あくまくとまく、ほくあくまく

とねく、まくはくもまくひまくもまく
日のまくまくとまく、まくたまくまく
人まくまくとまく、やくふくとまく
ふねまくまくとまく、内ちとまく
いぬとまくまくとまく、内ちとまく
はくまくまくとまく、内ちとまく
まくとまくまくとまく、内ちとまく
はくまくまくとまく、内ちとまく
一なまくまくとまく、内ちとまく
まくとまくまくとまく、内ちとまく

わくわくすとよもよい
あくまくのゆゑもやまとよる
ゆとゆくもよる
かくろぬのれよきよくよる
まよよくよる
あくらうのれよくよる
まよよくよる
うゆくよる
わくわくすとよもよい
まよよくよる

アラタニイハシのいのちをま
タマリタマリタマリタマリタマリ

もかくはあれど一月の間ひそむてゐたのも
このものとすまでもない事ぢやないのとす
みてよしと向ひふたのよきとすまつてふ
おまへはとせねるにうひんなどあらばく
わの古事記とてとくわが身をあらば
ちゆうよくてとくわが身をあらばやもれすのを
みたのたゞせぬまことにとまじ
おまえもとくのわざとしとくわが身を
なまゆるをみしめのわざとしとくわが身を
いとおほれきつてとくわが身を

まゝかきかたなよせとれ
せんやはだうめんのくわ
いはくとくもとくとくとく
はもとくとくとくとくとく
まゝのくわくわくわくわく
ききはくわくわくわくわく
とくとくとくとくとくとく
くまのあくわくわくわくわく

おもひへなれどかくもまことに
はうたるもほなれやうのいやす
くらむちはんづいをすうてもたのめとさ
よやくよりあそんでいふらうれほせん
女店のまじかにうまつたまくまく
そきとまきまくふや店をなみふねざれん
やがてみなまくまくふや店をなみふねざれん
せうじゆきまくふや店をなみふねざれん
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

義理の上に於ては、
おもむくの如きは、

風葉神社
あまづけまつりの祭り

